

1. 評価結果概要表

評価確定日 平成19年 8月 29日

【評価実施概要】

事業所番号	2275400212
法人名	有限会社 ワコー
事業所名	グループホーム 郷の家
所在地 (電話番号)	島田市東光寺178-5 0547-33-2101
評価機関名	セリオコーポレーション株式会社
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町 4番1号
訪問調査日	平成19年6月19日

【情報提供票より】(平成19年6月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 15年12月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	12 人	常勤 2人, 非常勤 10人, 常勤換算	7 人

(2) 建物概要

建物形態	単独	改築
建物構造	木造 造り	
	1 階建ての	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	54,000 円	その他の経費(月額)	18,000 円
敷 金	有(100,000 円) 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無
食材料費	朝食	300 円	昼食 400 円
	夕食	400 円	おやつ 100 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要(平成19年6月8日現在)

利用者人数	9 名	男性 1 名	女性 8 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名
要介護3	1 名	要介護4	名
要介護5	名	要支援2	名
年齢	平均 84 歳	最低 76 歳	最高 94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	市立島田市民病院 なお歯科医院
---------	-----------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

市街地から車で5分ほど、豊かな自然の中に立つ平屋建て1ユニットのホームである。管理者の思いが籠められた風通しの良いホームでは利用者が望む心地良い暮らしが実現できるよう、一人ひとりに対応した支援がされていた。理念を具体化した「理念と心がけ」が作成されそれを実践している職員の姿勢も爽やかである。症状が改善され家庭に戻った利用者や病気が治ったかと家族が驚くような改善も見られ利用者と共に感じながらの細やかなケアに家族からの信頼も厚い。今後予定されている運営推進会議により郷の家にとどのような発展が見られるのか楽しみである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での改善課題について、ホーム便りの発行や、楽しみごとの支援等取り組まれている。感染症に関して、罹患者が無く管理者が看護師であることから速やかな対応ができるが、利用者の外出も多いことから外からの菌の持ち込みも考えられるので、決まりごと作りなど話し合うことが望まれる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価票は管理者がミーティング等で話し合ったことを参考にして記入されている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議はまだ開催されていないが近いうちに開催が予定されている。地域密着型として多くのホームで成果を生んでいるこの制度を活用して、利用者へのサービスの向上に繋げていただきたい。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の訪問が多く、気軽に話ができる雰囲気や家族からは「何時行っても話の輪に入れていただける」との言葉があった。電話での連絡やホーム便りの送付により、ホームでの様子をお伝えしている。現在苦情や不満の声は聞かれていないが出た場合にはしっかり受け止めて善処する姿勢である。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	外出が好きな利用者と隣人にも恵まれて地域との良い関係が保たれている。近くの保育園との交流では、行事招待のお礼としてバザーへの協力やお茶の実を入れたお手玉を作ってプレゼントしたりまた、買物に行くスーパーで知り合いに出会い会話を楽しんだりしている。社会福祉協議会や市職員の協力を得て、利用者へのサービス向上に繋げている。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	理念は共感的態度、快の感情、私メッセージについて述べられており、これらの実現の為には地域との関わりは欠かせないものとなっている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念と理念を実現する為の具体的な事項を記述したプリントが職員に配布されており、ミーティングの際に確認している。記述と職員の行動が一つひとつ一致していることが確認できた。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	利用者が散歩の折に立ち寄りお宅では、利用者が摘み取る花を畑に咲かせており、散歩帰りは花や野菜をいただいでくることも多く、保育園児との交流、隣の製茶会社のイベント、地域行事への参加など気軽く自然なお付き合いがされている。		
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	管理者は評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組む姿勢であり、自己評価票記入に当たってはミーティングでの職員の意見を参考にしている。前回調査で指摘された項目については出来ることから改善している。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議はまだ開催されていないが6月に予定されている。	○	地域の様々な立場の方や利用者、家族にも参加していただき双方向での意見交換によりケアサービスの向上に繋げてゆくことが望まれる。

静岡県グループホーム郷の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者はかつて訪問看護に携わっていた関係から市の介護課等に人脈があり、情報の交換や栄養士への相談など気軽に出来る関係となっている。利用者への外出には社会福祉協議会の車を借りることもあり、利用者へのサービス向上に役立っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の訪問は多く、その折には最近の様子についてお知らせしている。また、それぞれの利用者の人となりや思い、様子を管理者が温かな言葉で綴り、家族宛に届けている。ホーム便りも年4回発行されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族等からの苦情や不満は現在まで寄せられていないが出た場合には、速やかに対応する姿勢である。	○	契約書や重要事項説明書に苦情相談窓口の記載がないのでホーム及び公的機関の苦情相談窓口の明記をお願いしたい。また、家族の意見や苦情は、ホームのサービス向上に繋がるのでそれを引き出す工夫が望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人代表と管理者はご夫婦であり、代表もヘルパー資格を有して介護業務に加わっている為職員の欠員時にも対処できる体制である。また、職員の離職を防ぐ為に待遇面での改善にも配慮している。	○	今後職員が退職する場合に備えて、利用者への影響を最小限に抑える為の仕組み作りも望まれる。
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	管理者は学びに積極的であり、サービスの向上に繋げるために自身も職員も資格取得を目指し勉強している。段階に応じた外部研修受講や内部研修においては共感し受容する支援の実践のためにバリデーションの勉強など興味を持って取り組めるよう育成に努めている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市の同業者の連絡会や勉強会に参加しており、情報も収集されて、ホームが満床の場合で急を要する利用者には他ホームを紹介するなど連携して便宜を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居希望者には、先ずホームを見学していただき、時間をかけてホームの暮らしについて説明し、会話によって打ち解けていただいている。利用者は優しく気さくな方が多く馴染みやすい雰囲気が出来ている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に生活している姿勢で支援をしている。台所では利用者から飯切りは水に暫らく浸けてから使用することを教えられ、職員が納得する場面も見られた。宗教や生き方についても教えられたり、励まされたりと支えあいの関係が築かれている。		
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は、利用者の話をよく聴き、できるだけその言葉を忠実に記録ノートに残している。それらを基に話し合い、利用者の希望や意向の把握に努め共有している。会話が弾んでいる場面もみられ、利用者とのコミュニケーションもとれている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日ごろの生活の中で、思いや意見を聞き取る努力をされており、一人ひとりのニーズにあわせた具体的な介護計画が作成されている		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は、6ヶ月に一度見直しを行っているが、利用者の変化に応じて、また必要なことが生じた場合は検討見直しを行い職員にも周知している		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特別な外出の支援(親戚の家)、外泊支援、早期退院の支援、終末期の入院の回避、また、管理者が看護師ということもあり医療処置を施しながらの生活の支援なども、行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医に受診している。医師との関係は良好であり、往診も気軽に来てくれたり、アドバイスも貰える。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期については、家族と共に医師に相談し検討している。家族の希望からターミナルケアを実施した経験もある。医師とも連携しながら介護を行い、最後を看取ることができ自信となっている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	ホームで作成された「理念と心がけ」の事項の中でも具体的に記されており、徹底するよう努力されている。職員は、入居者の気持ちを汲み取り、それぞれに応じたきめ細かな心配りをしていた。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活の主体は、あくまでも利用者であり、職員はそれを介助する立場であると言う姿勢で支援している。散歩、買い物、裁縫など、希望に添って生活している。職員が図書館から利用者が興味を持ちそうな本を借りて来て読んでいただいている。		

静岡県グループホーム郷の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食材の買い物から、調理、盛り付け、配膳そして、片付けまでの一連の作業を、入居者の能力に応じて分担し職員と共に無理なく行っている。食事も同じテーブルで一緒にとり家族のような雰囲気を作っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼風呂や夜間入浴など、入居者の希望にあわせて入浴出来るよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	スーパーへの食材の買い物や、散歩に出かけ花をとらせていただいているなど、楽しい暮らしを日常的に支援している。その他 草取りや手芸など一人ひとりの楽しみごとにも大事にしており、利用者が集中する姿もみられた。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	翌日の食材の買い物にスーパーへ毎日出かけている。また、散歩やドライブはいつでも出かけられるようにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	夜間のみ、鍵をかけている。出入口には静かなセンサーを設置し、利用者が出かけようとする職員が気づき対応できるようにしている。また徘徊する利用者には居場所のわかる器具をつけてもらい万全を期している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	「地震が来たら、机の下にもぐろう」などと利用者に話したりしているが、ホーム独自の避難誘導訓練は実施していない。	○	いざという時に慌てず確実な避難誘導ができるよう、職員間で話し合い、具体的なマニュアルを作成して頂きたい。また、運営推進会議などを通じ、地域との協力体制についても話し合ってもらいたい。

静岡県グループホーム郷の家

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	副食の盛り付けは入居者の役割として行っているが、全員に対する細かい量の調節は無理であるため全体量として職員が主食で調節している。毎月体重を計測し、摂取量には注意している。また、日常より変化がある入居者については特別な配慮をしている。	○	栄養摂取量や水分量については、今後も栄養士に点検していただき、一人ひとりにあった支援が出来るよう望みたい。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	四季を感じられる緑に囲まれた環境に立地している。ホーム内のあらゆる所から外を眺められるよう工夫されていたり、ベランダや庭に出て季節を感じたり草花に接することも出来る。室内も自然な空気が流れ、光が差込む大変居心地よく過ごせるホームである。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	安心して過ごせるよう、家族とも相談しながら、それぞれ馴染みの物を持ち込んでいる。(椅子、写真、掛け軸、位牌など)		